

80 塗料のしみの除去に関する研究

福島県立会津短大 佐川 澄子

被服整理上困難度の高い塗料附着のしみの除去について、溶剤、洗剤、漂白剤を順次に用いて実験し、経過時間の異なる事により、それ等のしみの除去状態が一様でないことを確認されたので報告する。

先ず各種布地を 1×10 cm に裁断して溶剤に浸漬し、その結果繊維を犯す溶剤を除外した。

次に試験管にしみの材料を 0.1 cc 入れ、溶剤を 3 cc 加えて攪拌し、溶不溶を観察し、不溶のものは加熱して溶解するものもあり、この実験により、次に精練した布地を 9×7 cm に裁断したものに、型紙と綿棒を用いてしみを附着させ、1分後、湯浴器を用いて溶剤を 40°C にあたため、その中に1分間浸漬させて取出し、更に新しく溶剤に一旦くぐらせて引上げ、綿布を重ねたものにしみをあて、綿棒に溶剤を吸わせて10回押つけて、しみを下の布に吸取らせた。次に0.5%石けん液を 70°C

±1°C にして浴比を 1:50 としてしみ布を浸漬して 30 分、引上げて 100 回摩擦し、水洗する。次に次亜塩素酸ソーダ 1% 液に処理し、つづいてヒドロサルファイト 0.5% 液、更に過酸化水素 0.3% 液にて処理する。

これを 1 分後、10 分後、30 分後にて行い、しみの除去段階を検討し、比色測定溶剤の比較、漂白剤の比較、除去時間の測定等について考察した結果を発表する。